

## 2025. 2. 5 わくわく交流デー

先日、隣接の附属義務教育学校前期課程で来年度入学対象児向けに、わくわく交流デーが行われました。附属幼稚園の年長児らも多くの子が参加しました。

まずは体育館で1年生による学校紹介。

掃除の実技やお道具箱や教科書の実物提示、紙芝居などいろいろな方法で1年生の生活について紹介をします。その後は、ペアになり学校探検です。

探検に行く前に不安で少し涙する子がいました。そこに寄り添いながら優しく頭をなでるペアの1年生の男の子。1年生の心の成長や優しさに感動するとともに、迎える側としての彼なりの責任感も感じます。

それぞれが1年生教室、音楽室、図書室、体育館などいろいろ連れながら紹介をしていました。

音楽室に行ったとき、6年生が楽器の練習をしていました。

入っていいのかな？と園児と1年生が教室の外から見ていると、6年生も快く中に案内をしてくれます。

そこで、6年生の女子児童が持っていたのは、アコーディオン。

そこにいたA子はアコーディオンに興味を示します。A子はピアノが大好きで、昼遊びでいつもピアノを弾いて楽しんでいます。6年生の子は、A子の様子を見てアコーディオンを担がせてくれました。そして、その女の子は「チューリップ」の曲を弾いてとても嬉しそうでした。横では6年生がアコーディオンに空気を入れたり出したりして、手助けしてくれていました。

後で、「あんな楽器初めて！すごい！」「何でお姉ちゃんたち、横で動かしてたの？」と教師に言いに来ました。幼稚園ではなかなか出会えないものが、学校にはあります。そして、ピアノが好きだからこそ、アコーディオンの面白さや不思議さにまた興味が広がっていき、同時に学校への期待感にもつながっていくのかもしれない。教室では、一緒に折り紙で紙飛行機を作ったり、ランドセルを担がせてもらったり、黒板に絵を描いたり、教科書を見たりと1年生のペアの子がそれぞれに考えながら、いろいろな体験を交えて紹介をする姿が見られました。

園に戻ってから、紙飛行機を作っている女の子がいました。その横には先ほど1年生教室で作った紙飛行機も袋の中に入れていました。「めっちゃとぶ紙飛行機教えてもらったんだ！」ともう一回自分で折ってみます。そして、女の子たちで保育室の中で飛ばして楽しんでいました。学校での体験が、園での遊びへとつながっていきます。

学校の様子などを聞くことも大切ですが、子供たちなりに学校に興味をもち、心が動く、心に残る体験ができるというのも幼小をつないでいくためにも、小学校に対して安心感をもつためにも大切なことなのかなと感じました。小さな感動体験でいいと思います。「図書館に大好きな電車の図鑑があった！」「不思議な楽器があったよ！」「保健室の前でおみくじできるんだよ！」「学校の体育館とっても広かった！」「僕もあんな筆箱ほしいなあ」「グルグル階段があったよ！（シンデレラ階段というものが義務にはあります）。」などその子なりの感動でいいんです。

そして、「学校でも折り紙で遊べるんだ！」「幼稚園の鉄棒と同じ高さの鉄棒もあったよ！あんなの簡単！」「幼稚園にもある絵本があったよ！」など、園と同じな部分を知るというのも安心感をもつというところから大切な気がします。

卒園まであと1か月と少し。1年生に向けてみんなで期待感をさらに高めながら、過ごしていきたいです！

